

小学校 特別活動

1 教育課程実施上のポイント

(1) 目標

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりすることができるようにする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生活についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

特別活動の目標は、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」という三つの視点を手掛かりとしながら、特別活動において育成することを目指す資質・能力の三つの柱に沿って整理された。

◆特別活動における三つの視点

「人間関係形成」	集団の中で、人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成するという視点
「社会参画」	よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決しようとするという視点
「自己実現」	集団の中で、現在及び将来の自己の生活の課題を発見しよりよく改善しようとする視点

(2) 実施上のポイント

①改訂のポイント

特別活動全体を通して、自治的能力や主権者として積極的に社会参画する力を育てることを重視し、学級や学校の課題を見だし、よりよく解決するため話し合っ合意形成すること、主体的に組織をつくり役割分担して協力し合うことの重要性を明記した。

■各活動における内容の改善・充実のポイント

【学級活動】	<p>○小学校段階から学級活動の内容に「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」を設け、キャリア教育の視点からの小・中・高等学校のつながりを明確化。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>現行の学級活動(2)「日常生活や学習への適応及び健康安全」の内容が、学級活動(2)「日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」と学級活動(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」に分けて整理されました。</p> </div> <p>○学習の過程として、「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」については、「<u>集団としての合意形成</u>」を、「(2)日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」及び「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」については、「<u>一人一人の意思決定</u>」を行うことを明示。</p>
--------	---



【児童会活動】	<ul style="list-style-type: none"> ○内容の(1)を「<u>児童会の組織づくりと児童会活動の計画や運営</u>」とし、児童が主体的に組織をつくることを明示。 ○異年齢集団活動等の社会参画を重視。 ○運営や計画は主として高学年の児童が行うこととしつつ、学校の全児童が主体的に参加できるよう配慮することを明示。
【クラブ活動】	<ul style="list-style-type: none"> ○従来に引き続き、同好の異年齢の児童が共通の興味・関心を追求する活動であるとした上で、<u>児童が計画を立てて役割分担し、協力して楽しく活動するものであることを明示。</u>
【学校行事】	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校における自然の中での集団宿泊活動を引き続き重視。 ○健康安全・体育的行事の中で、<u>事件や事故、災害から身を守る</u>ことについて明示。

②主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善のポイント

特別活動の深い学びとして、児童が集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組む中で、互いのよさや個性、多様な考えを認め合い、等しく合意形成に関わり役割を担うようにすることを重視。

◆「主体的な学び」を実現するための授業改善のポイント

- 自ら課題を見いだしたり、解決方法を決めて自主的に実践したり、その取組を振り返り、よい点や改善点に気付いたりできる用にする事が大切

◆「対話的な学び」を実現するための授業改善のポイント

- 学校や学級における集団や自己の課題を見だし、解決するために合意形成を図ったり、意思決定したりする中で、話し合いを通して他者の様々な意見に触れ、自分の考えを広げたり、課題について多面的・多角的に考えたりすることが重要
- 様々な関わりを通して感性を豊かにし、よりよい合意形成や意思決定ができるような資質・能力を育成していくことが大切

◆「深い学び」を実現するための授業改善のポイント

- 「実践」を単に行動の場面と狭く捉えるのではなく、課題の設定から振り返りまでの一連の活動を「実践」と捉えることが大切
- 基本的な学習過程を繰り返す中で、各教科等の特質に応じた見方・考え方を総合的に働かせ、各教科等で学んだ知識や技能などを、集団及び自己の問題の解決のために活用して行くことが大切

③見方・考え方について

- ◇特別活動の特質に応じた見方・考え方は「集団や社会の形成者としての見方・考え方」である。
- ◇「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせるということは、各教科の見方・考え方を総合的に働かせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結び付けることである。

④移行措置について

特別活動は、教科書の対応を要するものではなく、平成30年度から新学習指導要領によるため、移行措置はなし。

年間指導計画の見直しが必要です。これまでの学級活動(2)の題材の中から、学級活動(3)「一人一人のキャリア形成と自己表現」にあたる題材はどれかを確認し、内容を検討したり整理したりしていきましょう。



学級活動(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成

学級や学校での生活づくりに主体的に関わり、自己を生かそうとするとともに、希望や目標をもち、その実現に向けて日常の生活をよりよくしようとすること。

イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解

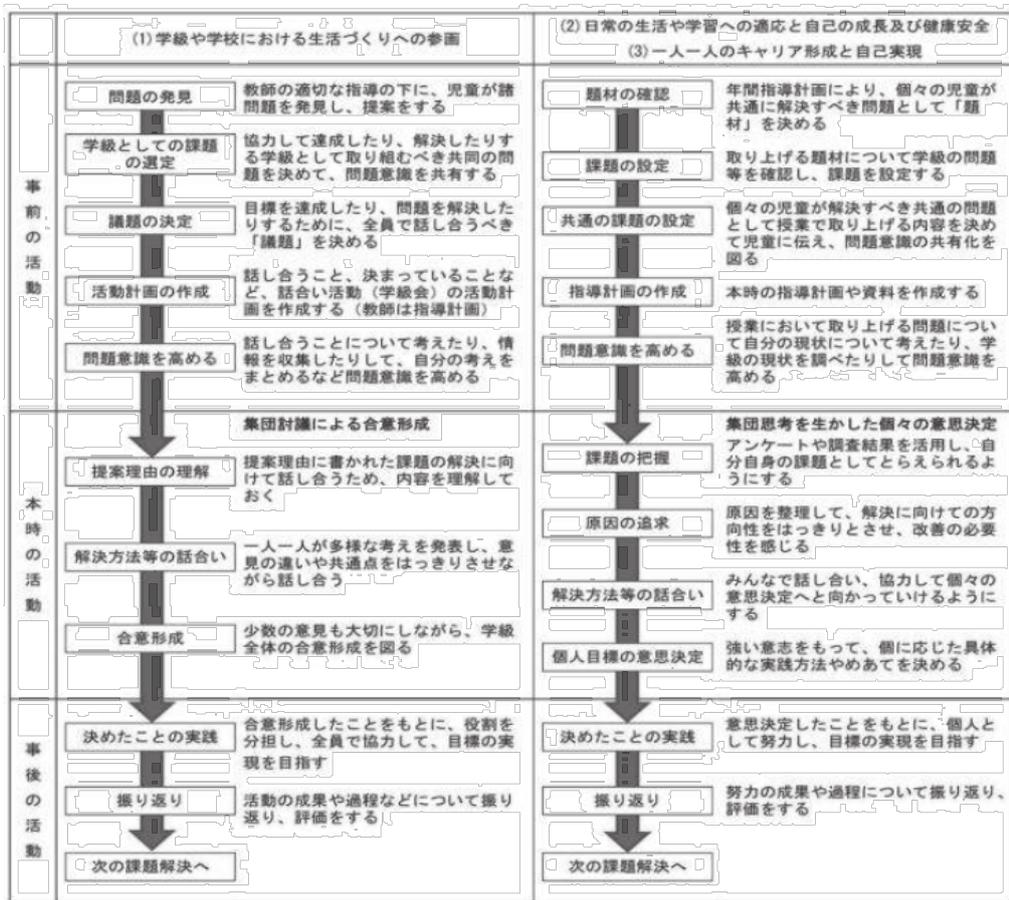
清掃などの当番活動や係活動等の自己の役割を自覚して協働することの意義を理解し、社会の一員として役割を果たすために必要なことについて主体的に考えて行動すること。

ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用

学ぶことの意義や現在及び将来の学習と自己実現とのつながりを考えたり、自主的に学習する場としての学校図書館等を活用したりしながら、学習の見通しを立て、振り返ること。

2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導展開例

(1) 学級活動の一般的な指導過程例



指導過程の例(学習指導要領解説 小学校特別活動編 参照)を参考に、実践に取り組みましょう。本時の活動だけでなく、事前・事後の活動も大切に扱います。



(2) 授業展開例

学級活動(1) 4月議題「どうぞよろしくの会をしよう」(第3学年)

○事前の活動

- ・計画委員会：議題の選定、話し合いの計画作成、提案者との打合せ(業間休憩)
- ・学級全員：話し合いの内容・柱・条件等を把握し、自分の考えをもつ(帰りの会)

○本時の活動

「よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築」の視点による議題

提案者



(議題設定の理由)

違うクラスだった友達の事を知ったり、仲良くなったりするために、みんなで仲良く遊ぶ『どうぞよろしくの会』がしたいです。

(教師の意図)

互いの意見を尊重し合いながら協力して計画を立て、実践する事を通して、新しい友達を中心とした学級内の人間関係を深めていきたい。また、自分たちの力でよりよい学級をつくっていかうとする自治的能力や自主的、実践的な態度を高めていきたい。

担任



話し合いの順序	指導上の留意点
1 始めの言葉	学級活動(1)は、児童の自治的・自発的な活動であるので、発達段階や実態に応じながら、「計画委員」等が話し合いを進めるようにすることが大切です。
2 計画委員会の自己紹介	
3 議題の確認 「どうぞよろしくの会をしよう」	○提案者の思いを全員が理解し、話し合いの指針となるよう事前に指導する。
4 提案理由やめあての確認	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【10の視点】 ⑤説明・発表の機会の充実 ⑥学び合う活動の充実 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 事前に自分の考えをもち、話し合う事で「互いのよさや個性、多様な考えを認め合い、等しく合意形成に関わり役割を担う」ことにつながる話し合いとなります。 </div> </div>
5 話し合い ①どんな遊びをするか ②どんな工夫ができるか ③どんな係が必要か	○下記のことにについて適宜助言する。 ・理由を付けて発表すること ・提案理由を意識し、みんなで楽しめるゲームを提案すること ・発言者が偏らないようにすること ・自治的活動の範囲を超えないようにすること ・なかなか発言できない児童にも発言できる機会を与えるようにすること ・少数意見であっても発言の機会を与えること ・自分の考えに固執せず、納得した上で考えを変えるなど、折り合いをつけることも必要であること
6 決まったことの発表	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【10の視点】 ⑧学習を振り返る活動の設定 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 自分たちで見いだした課題の解決に向けた提案理由やめあてに沿って振り返しをすることが、実践への意欲を喚起し、主体的に活動する事につながります。 </div> </div>
7 話し合いの振り返り	○よかった点や課題について自己評価するとともに、友達のよかった点などについても相互評価できるように助言する。
8 先生の話	○提案理由を意識した発言や学級全体を考えた建設的な発言、意欲的に参加していた児童を称賛するとともに、今後の課題を伝える。 ○計画委員へのねぎらいの言葉をかけるとともに実践への意欲が高まるように言葉かけをする。
9 終わりの言葉	

実践に向けて、継続的に指導するとともに、事後の振り返りをして、日々の生活や次の活動に生かせるようにすることが大切です。

○事後の活動

- ・計画委員会：決定事項・役割分担の掲示(昼休憩)、会のめあての確認(当日)
- ・学級全員：役割ごとの準備(昼休憩)、役割ごとの仕事(当日)、振り返り

学級活動(2)(3)についても、目標と内容を確認して、指導にあたりましょう。また、特別活動の指導資料等をもとに、自分の指導を振り返ってみましょう。



【参考】楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)国立教育政策研究所H25.7

中学校 特別活動

1 教育課程実施上のポイント

(1) 目標

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

特別活動の目標は、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」という三つの視点を手掛かりとしながら、特別活動において育成することを目指す資質・能力の三つの柱に沿って整理された。

◆特別活動における三つの視点

「人間関係形成」	集団の中で、人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成するという視点
「社会参画」	よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決しようとするという視点
「自己実現」	集団の中で、現在及び将来の自己の生活の課題を発見しよりよく改善しようとする視点

(2) 実施上のポイント

①改訂のポイント

【学級活動】	<ul style="list-style-type: none"> ○「(1)学級や学校の生活づくりへの参画」の指導の充実を図るため、(2)、(3)の内容を、各項目の関連に配慮して整理した。 ○学級活動(1)は「<u>集団としての合意形成</u>」、学級活動(2)及び(3)は、「<u>一人一人の意思決定</u>」を行うことを明示した。 ○キャリア教育に関わる様々な活動に関して、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこととした。
【生徒会活動】	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校で身に付けた資質・能力を基礎に、<u>生徒の自発的・自治的に活動する態度や能力</u>を高めていくことが必要である。 ○いじめの未然防止などの問題を生徒会として取り上げる際には、学校として、<u>生徒の主体的な活動</u>を大切にしながら、学校と家庭や地域との連携・協力を積極的に進め、その解決に当たることが必要である。 ただし、いじめを認知した場合は、いじめ防止対策推進法に則り対応のこと。

【 学 校 行 事 】	<ul style="list-style-type: none"> ○学校行事の内容(1)儀式的行事(2)文化的行事(3)健康安全・体育的行事(4)旅行・集団宿泊的行事(5)勤労生産・奉仕的行事は、改訂後も変更なし。 ○健康安全・体育的行事の中で、事件や事故、災害等から身を守ることについて明示した。 ○中学校における<u>職場体験等の体験活動</u>を引き続き重視した。
----------------------------	--

②主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善のポイント

よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己実現に資するよう、生徒が集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組む中で、互いのよさや個性、多様な考えを認め合い、等しく合意形成に関わり役割を担うようにすることを重視。

◆「主体的な学び」を実現するための授業改善のポイント

- 自己の現状に即して、課題を見いだしたり、解決方法を決めて実践したり、その取組を振り返り、よい点や改善点に気付いたりできるようにすることが大切

◆「対話的な学び」を実現するための授業改善のポイント

- 学級や学校における生活上の課題を見だし、解決するために意思決定したり、合意形成を図ったりする中で、他者の意見に触れ、自分の考えを広げ、課題について多面的・多角的に考えたりすることが重要
- 様々な関わりを通して感性や思考力、実践力を豊かにし、よりよい意思決定や合意形成ができるようになることも重要

◆「深い学び」を実現するための授業改善のポイント

- 「実践」を単に行動の場面と狭く捉えるのではなく、課題の設定から振り返りまでの一連の活動を「実践」と捉えることが大切
- 各教科等の特質に応じた見方・考え方を総合的に働かせ、各教科で学んだ知識や技能などを、集団及び自己の問題の解決のために活用していくことが大切

③見方・考え方について

- ◇特別活動の特質に応じた見方・考え方は「集団や社会の形成者としての見方・考え方」である。
- ◇「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせるということは、各教科等の見方・考え方を総合的に働かせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結び付けることである。

④移行措置について

特別活動については、教科書の対応を要するものではなく、平成30年度から新学習指導要領によるため、移行措置はなし。

学級活動及び生徒会活動の内容項目の一部が変更されました。また、内容が統合されたところもあります。具体的には、学級活動(1)～(3)で17項目あったものが11項目に、生徒会活動が5項目から3項目に減っています。ただし、項目は減りましたが、なくなった内容はありません。



2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導展開例

(1) 学級活動の一般的な学習過程 (例)



学習過程(例)を参考に、実践に取り組みましょう。
本時の活動だけでなく、事前・事後の活動も大切にしましょう。

(2) 授業展開例

学級活動(3) 第2学年

○題材 情報社会におけるモラル

内容 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成

改訂前は
(2) 適応と成長
及び健康安全
ウ社会の一員としての
自覚と責任でしたね。

○事前の活動

- ・情報モラル教室の実施 講演「SNSの落とし穴」
- ・警察署員の講話を2年生全員が聞く。
- ・講話後の感想や、SNSの利用についてアンケートを実施する。

○本時の活動

- ・本時のねらい

SNSに関する問題への対処法について事例を基に考えることで、情報社会で適正な活動を行うための基本的な考え方を理解させるとともに、情報社会の一員としての自覚や責任をもって行動しようとする態度を育てる。



・本時の展開

	活動の内容	指導上の留意点
① 問題 の 発見 ・ 確認	1 情報モラル教室の感想を共有する。	・生徒の感想から、SNSの利便性と危険性を伝える。
	2 SNSアンケート結果を公表する。	・アンケート結果を活用し、自分自身の課題として捉えるようにする。 【10の視点】①魅力的な課題・教材の提示 アンケート結果をグラフ等で表し視覚化することで、生徒一人一人が自分自身の問題であると捉えることができるよう工夫する。
	3 本時の流れの確認をする。	・事例と本時の流れを掲示し、説明する。
② 解決 方法 の 話し 合い	4 事例を基に対処法を考え、発表し合う。	・グループで各事例の問題点とその理由を考え、対処法について話し合う。 【事例】 ① 同級生のうわさがメールで届き、他の友だちに転送した。 ② インターネットオークションで、有名ブランドバッグを2,000円で落札し、指定された銀行口座に振り込んだ。 ③ 友だちから「ゲームの新アイテムをあげるから、メール送信時のパスワードを教えて」と言われ伝えた。 【10の視点】⑤説明・発表の機会の充実 なぜそうなのか、そのためにはどうしたらよいか、責任ある対処の仕方について考え、理由を述べる場の設定が必要です。 ・それぞれの発表に対し、意見を述べ合う。 【10の視点】⑥学び合う活動の充実 各グループの発表を聞き、それに対する意見を述べ合うことで、自らの解決方法を「意思決定」するためのヒントとする。
	5 SNSを利用する際の自分の考えをまとめる。	・SNS利用時の留意事項をワークシート等にまとめる。 生徒のよさを多面的・総合的に評価するために、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりできるようなポートフォリオ的な教材などを活用して、自己評価や相互評価するなどの工夫が求められています。
③ 決定	6 意思決定した内容を発表する。	

○事後の活動～④決めたことの実践 ⑤振り返り～

- ・ SNS利用時の留意事項について、意思決定したことの実践状況や家庭で話し合ったことを報告し合う。
- ・ 一定期間経過後、学級内で振り返る場を設定する。



【10の視点】⑧学習を振り返る活動の設定

学級通信等を家庭に配布したり、保護者会等で伝えたりするなど、家庭との連携を図り、保護者の協力を得ることも大切です。

【参考】「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校 特別活動）」

平成 23 年 7 月 国立教育政策研究所